

＜ もくじ ＞	
1. 2019年度定時総会・第18回大会開催日と概要のお知らせ	1
2. 第5回研究会合同イベント（シニアのICT活用研究会主催）開催のお知らせ（再掲）	1
3. 研究会からのお知らせ	2
4. 各研究会の概要報告	2-4
5. 事務局からのお知らせ	4

1. 2019年度定時総会・第18回大会開催日と概要のお知らせ

※2019年度定時総会・第18回大会の開催日と会場が決まりましたので概要をお知らせします。

(1) 2019年度総会・第18回大会の日程・会場について

1) 開催日時：2019年6月15日（土）

（開催概要 第一部《総会》：10時～、第二部《大会》：11時30分～）

2) 開催場所：駒澤大学（駒沢キャンパス 教室など詳細は未定）

（東京都世田谷区駒沢一丁目23番1号、東急田園都市線駒沢大学駅下車徒歩8分）

会場は、昨年同様駒澤大学駒沢キャンパスとなります。今後のJAAS Newsで新しい情報をお知らせいたしますので、総会・大会の会場のお知らせには十分ご注意ください。

(2) 2019年第18回大会のテーマについて

1) 大会テーマ：「(仮) 持続可能な超高齢社会の条件～地域コミュニティのSDGs～」

※SDGsとは、2015年9月に国連で開かれたサミットの中で決められた、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称であり、国際社会共通の目標です。

2. 第5回研究会合同イベント「人生100年時代を豊かに生きるためのICTの可能性～シニアの活用を支えるサポーターの役割とは？～」開催のお知らせ（再掲）

高齢期は、虚弱化、家族の介護など様々な理由で社会との様々なつながりが縮小していく時期といえます。近年ではつながりを失うことが喫煙よりも健康度を下げることが指摘されています。人生100年時代ともいわれる長い時間、いかにつながりを維持していくかが重要な課題といえます。

「シニアのICT活用研究会」（澤岡座長）が担当する第5回研究会合同イベントでは、豊かに歳を重ねる為にシニアにも普及著しいICT（インターネットやモバイルなど）がもつ可能性を論じつつ、総務省の推進するICT活用推進委員を一つの視点にこれを支えるサポーターの役割を考えます。

◆基調講演 「(仮) 人生100年時代を豊かにするICT活用推進委員」

犬童周作（総務省情報流通振興課 課長）

◆先行事例紹介

◆司会 澤岡詩野（当学会理事・ダイヤ高齢社会研究財団）

1) 日 時：2019年3月16日（土）14：00～16：00（受付は13：30から）

2) 会 場：東京家政学院大学三番町校舎1214室（市ヶ谷駅徒歩8分）

3) 参加費：1,000円（学生：500円）

※シンポジウム終了後に1時間程度茶話会（無料）を予定しております。

4) 申込方法：3月8日（金）までに、お名前、連絡先、茶話会への参加の有無を e-mail・電話・FAXでシニア社会学会事務局までお申込みください。

事務局（月・水・金）：電話・FAX 03-5778-4728 e-mail : jaas@circus.ocn.ne.jp

3. 研究会からのお知らせ

(1) 第116回「社会保障」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2019年2月27日(水) 18:00~20:00
- 2) 報告者：西下彰俊(東京経済大学教授)
- 3) テーマ：「介護保険・ケアマネジメント・コミュニティケアの日韓比較」
- 4) 会 場：日本労働者協同組合連合会 会議室
東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル 8階

※ご質問がございましたら、阿部(旧姓佐藤 090-4436-6853)まで

(2) 第63回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2019年2月28日(木) 15:00~18:00
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第6共同研究室
- 3) テーマ：〈問題提起〉シニア社会における『AI』について ~ 井上智弘著『人工知能と経済の未来』(文春新書刊)を読み解いて~
- 4) 発表者：安田 和紘(研究会コーディネーター)、島村 健次郎
- 5) 参加費：300円

※お問い合わせは、島村(ken-sima1941@jcom.home.ne.jp)までお願いいたします。

(3) 第29回「シニアのICT活用」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2019年3月8日(金) 14:00~16:00
- 2) 場 所：(公財)ダイヤ高齢社会研究財団会議室
新宿区新宿一丁目34番5号 VERDE VISTA 新宿御苑 3階 <http://dia.or.jp/access>
- 3) 話題提起者：茨木 裕子(早稲田大学人間科学部通信教育課程 教育コーチ)
- 4) テーマ：「中高年者の社会参加活動と情報活用について」(仮)
- 5) 参加費：500円

※参加のご連絡は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。

(4) 第54回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2019年3月15日(金) 18:00~20:00
- 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス39号館5階第5会議室
- 3) 報告者：野坂 真(早稲田大学助手)
- 4) テーマ：災害復興の次の段階への移行期における地域文化の再構築—岩手県大槌町におけるヒアリングと地域アーカイブ活動から復興とは何かを考える—(仮)
- 5) 参加費：当分の間頂戴しません。

※お問い合わせは、福原(fukuhara@jaas.jp)までお願いいたします。

4. 各研究会の概要報告

(1) 第53回「災害と地域社会」研究会の報告

- 1) 日 時：2019年1月21日(月) 18:00~20:00
- 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス39号館6階第7会議室
- 3) 報告者：小林秀行(明治大学専任講師)
- 4) テーマ：「日本の災害復興は何を見て、何を見なかったのか」
~『復興とは何かを考える連続ワークショップ』の議論から

本報告は、小林さんの長期的な研究テーマである「災害復興」という社会過程を、マクロな社会の変化と関わらせていかに説明するかという大きな課題に答えようとするものである。災害復興学会で4月~12月までに行われた計6回のワークショップでの議論を振り返り、主要な4つの論点と6つの話題に整理して、戦後日本社会の災害復興の特色と問題点を浮かび上がらせるとともに、東日本大震災を経験し、リスク社会と呼ばれる現代日本社会で、「当事者の“生”を成

立させる」災害復興のあり方を探ろうと試みる。

災害復興学会でのワークショップでは、世界の災害に目を向けて、啓蒙思想の幕開けに起こったリスボン地震（1755）が時代を変える大きな衝撃をもたらしたことに注目し、東日本大震災（2011）がグローバル時代の幕開けに起きたことが時代を変える意味を持つのかと問いかける。そして小林さんはそれらの議論から、日本社会の災害復興が、経済成長による発展という文脈で考えられてきたこと、政府・自治体の私権の制限による大規模な空間変容（公共事業）によって「まちをつくりかえる」ことに特徴があるとしている。そして、一定の経路に依存し経済成長に結びつかないと違和感が生まれる復興のあり方を見直していくためには何が必要であるのかを問い、結果としての被災者支援ではなく被災者が主体となり権力に対するオルタナティブな選択肢としての復興のあり方を目指すための糸口を探ろうとしている。その議論は、まだ十分に煮詰められてはいないとはいえ、政治・経済・社会過程としての復興に関して、価値観や集団形成、お上意識や日本の文化の特質などとともに、当事者の「納得」の過程を含む重要な論点の整理と争点が提示された。

参加者からは、復興の主体をめぐる問題点（被災者自体の分断、利害関係など）、権力に対抗するオルタナティブとなる選択肢をめぐる集団に関する問題点、政治・経済・社会過程としての復興と心理過程の関係、日本人のお上意識や上意下達文化、経済成長意識から脱却できない現代社会の価値観や理念と災害復興との関わりなどに関して活発な意見が交わされた。（長田記）

（2）第115回「社会保障」研究会の報告

- 1) 日 時：2019年1月23日（水） 18：00～20：00
- 2) 報告者：向 隆志（新宿区福祉部高齢者支援課長）
- 3) テーマ：「新宿区の地域包括ケアシステム構築に向けた挑戦」
- 4) 会 場：日本労働者協同組合連合会 会議室
東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル 8階

地域包括ケアシステムが地域においてどのように実践されているかについて、新宿区の担当課長から説明があった。新宿区の特徴は、単身世帯割合が高く（64.9%で全国市区のうち第一位）、未婚率が高い（男 49.4%、女 41.4%でそれぞれ第一位）ことである。これは、留学生を中心とする若い外国人が多いことにもよる。高齢単身者の割合は、33.4%で第三位であるが、かつては一位であった。75歳以上の一人暮らし高齢者を対象に、月2回、「ぬくもりだより」を訪問配布し、年2回は民生委員が訪問配布することによって安否確認をし、要望を尋ねている。

高齢者総合相談センター（新宿区では地域包括支援センターをこう呼んでいる）に、研修を受けた副管理者を配置し、きめ細かいサービスを行っている。また、認知症の人と家族に対して、東京都の専門研修を受けた認知症サポート医が支援をしている。高齢者や家族がかかえる法律的な問題を解決するために、センターが間に立って法テラスの弁護士との三者面談を無料で行っている。相続に関する相談が多いとのこと。こうした試みにもかかわらず、元気な高齢者でセンターの名称を知っている者は37.1%と低く、今年度中に50%にするのが目標である。

昨年9月からは、高齢者見守りキーホルダー事業を開始している。これは、徘徊や外出先で倒れた高齢者の身元確認ができるよう、個別の登録番号と居住地域のセンターの番号を記したキーホルダーである。私自身、課長に出講を依頼した折に、勧められて取得した。いつか役立つ時があるかもしれない。

参加者からは、新宿区の取り組みへの賞賛がある一方で、東京都から助成が得られる認知症カフェを開催していないことへの疑問が呈された。新宿区では、認知症に特化しない高齢者対象のカフェは開催しているが、認知症カフェについては今後の課題であるとのことであった。

（袖井孝子 記）

(3) 第62回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

- 1) 日 時：2019年1月24日（木） 15：00～18：00
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第6共同研究室
- 3) テーマ：「年齢効果」の復習
- 4) 発表者：安田 和紘研究会コーディネーター

今回は、前回の木下勝巳さんによるガルブレイズ著『ゆたかな社会』（岩波現代文庫刊）を読んで問題提起された「年齢効果」についての続編として、安田さんから発表いただいた。ポイントとして欲望は個々の必要性に応じ自律的に発生する一面があり、外部からの作用により造出される一面もある。それを「依存効果」と呼ぶのが便利であろうと述べられた。

濱口座長はコメントとして、「年齢効果」ということばは、「依存効果」をもじって表現したこと。いま社会は「年齢」という問題に直面しているが、年齢はかつて従属変数として扱われてきたが、コーギルの高齢社会に関する22の仮説で、年齢は従属変数から独立変数に変わったこと。年齢をエイジングという観点から考えて来たこと。年齢の依存効果は、「生命と生活の乖離」となって現れていること等の解説がありました。 (島村記)

5. 事務局からのお知らせ

《 学会機関誌「エイジレスフォーラム」第17号掲載原稿を募集します 》

一般社団法人シニア社会学会は広報誌のひとつ、学会機関誌「エイジレスフォーラム」第17号に掲載される『会員の声』、および過去3年以内に出版された『著書紹介』の原稿を募集します。下記の要項に基づきふるってご応募ください。

◆『会員の声』

テーマ：日頃から考えていること、現在地域で活動して感じたこと、シニア社会学会のこれから、などテーマは自由です。

文字数：800字（30字前後の長短は可能）

締 切：2019年3月30日必着

送り先：シニア社会学会・事務局担当武者宛電子メール（jaas@circus.ocn.ne.jp）に添付。
不可能な場合はFAX（03-5778-4728）にてお送りください。

◆『著書紹介』

過去3年以内に出版した著書、または共著をご紹介します。

応募方法：紹介著書の書評、及び著書本体（表紙画像掲載の為）を下記あてお送りください。

書評文字数：1,200字以内を厳守ください。

書評のみ電子メール（jaas@circus.ocn.ne.jp）添付にて、事務局担当武者宛にお送りください。

締 切：2019年3月30日必着

送り先：〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-27-4 ナカヤビル202
一般社団法人シニア社会学会・事務局担当武者宛
尚、お送りいただきました著書は編集終了後返却いたします。

一般社団法人シニア社会学会・事務局（月・水・金オープン）
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-27-4 ナカヤビル202
電話&FAX：(03) 5778-4728
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：<http://www.jaas.jp/>